

2020年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495000521	事業の開始年月日	平成28年12月1日
		指定年月日	平成28年12月1日
法人名	株式会社 ケア		
事業所名	グループホームみよの		
所在地	(210-0821) 神奈川県川崎市川崎区殿町2丁目14-11		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	17 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和2年11月30日	評価結果 市町村受理日	令和3年4月27日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1、日中は人員を増やし入居者の思いを少しでも実現に近づけるように努めております。</p> <p>2、この地域で生活するという意識を持っていただけるよう町内会の催しに積極的に参加しています(今年はコロナウイルス対策のため自粛)</p> <p>大家族で生活しているという考え方のもとで個人の能力を生活にいかし個人に合った生活が出来るよう努めています。季節感のある工作の作成や手作りおやつ作り、食レク等を行事に取り入れ、職員共々楽しめる空間作りを心掛けています。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和2年12月21日	評価機関 評価決定日	令和3年4月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、京浜急行大師線「大師橋」駅下車徒歩8分にあります。1階は保育士を配置し職員の子供を預かる保育スペース、2階と3階がグループホームです。隣接建物も同一法人のグループホームです。

<優れている点>

「今に満足せず、より良い方法を話し合い、実行する」という理念を挙げています。職員は意見やアイデアを出し合い、管理者やリーダーが衆知を集めて決定しています。職員のアイデアで、毎月家族に送る「みよの便り」は入居者の笑顔の写真を多数掲載するように見直して好評です。職員の提案により、毎食の米飯を精米したての新潟魚沼産に替え、食欲を高める支援をしています。運営会議やユニット会議の際には、職員全員が意見を出し、理念を理解し実践につなげています。自治会に加入し、管理者は町内会の会議に参加しています。町内会の行事に参加し、地域と積極的に関わっています。1階を地域交流スペースとして、地域に会場を提供することもあります。地域ボランティアの来訪や近隣の障がい者施設のレストランでの食事など、地域との交流に力を入れています。

<工夫点>

近隣の水神社の周辺や公園、多摩川べりの散歩を楽しんでいます。ホームの4階屋上は遮る物もない見晴らしで、日当たりが良く、羽田空港の飛行機の離着陸なども良く見えます。屋上菜園での水やりや野菜収穫など日常的に外気にふれています。夏は屋上に地域の人を招待し、近隣の花火大会を鑑賞して交流をしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームみよの
ユニット名	みよの2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	スタッフ全員で理念を共有し実践に繋げられよう心掛けています。社内外の行事に参加する機会を多く作り自己研鑽に努めています。	「私たちは『心』と『技術』のあるサービスを考え、提供し、地域社会に貢献します。今に満足せず、より良い方法を話し合い、実行する」という理念を掲げています。理念に沿い、会議の中で職員全員が意見やアイデアを出し合い、衆知を集めて決定し取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会の行事「公園の草むしり、盆踊り大会(コロナウィルス対策により今年中止)廃品回収他」に利用者様と参する等、地域とのコミュニケーションを大事にしています。	自治会に加入し、回覧板で情報共有をしています。管理者は、町内会の会議に参加しています。町内会の行事である夏祭り、廃品回収、草むしりなどに参加しています。地域ボランティアの来訪や近隣の障がい者施設のレストランでの食事など、地域との交流に力を入れています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今年はコロナウィルス対策により「認知症サポーター養成講座」等の講座は控えました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	隔月で開催をしている会議では地域とのかかわり、職員研修、行事企画等を計画し意見交換を行い、よりよいサービスの向上にいかしています。	コロナ禍ですが、感染防止対策を徹底し、運営推進会議を実施しています。メンバーは、法人顧問弁護士・社会保険労務士・行政書士・民生委員・法人代表者・管理者です。事業所の課題を話し合い、地域の理解と支援を得て、サービスの向上に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	今年はコロナウィルス対策によりキャラバンメイトの参加、認知症サポーター養成講座開催のお手伝い他、控えていますが包括との意見交換等は必要があれば電話で連絡をしています。	運営推進会議の報告や介護保険の申請代行の際に行政と連携を図っています。区主催のボランティアの会議に事業所内の地域支援交流スペースを提供しています。川崎市が主催しているリモート研修に参加し、コロナ感染防止についてと感染者が出たときの対処方法を学んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束、虐待防止委員会による定期的な研修を行っています。各ユニットのミーティングにおいて身体拘束をしないケアについて常に意識し話し合い取り組むようにしています。	「身体拘束廃止委員会」を定期的実施し、具体的な事例をあげて協議しています。職員は日頃のケアが身体拘束になっていないかを振り返り、正しく理解しています。職員の言葉による抑制に注意するだけでなく、態度や行動が入居者の気持ちを萎縮させ、心理的苦痛を与えるという事を意識しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	マニュアルを作成し防止策に努めています。職員全体の理解を深められるよう社内研修を開催しています。気になる事があった時には常にミーティングで話し合い防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護が必要とされる背景や権利侵害が行われている場合の必要については職員間で速やかに共有している。来年は「成年後見人制度」「日常生活支援事業」についての研修を行いたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、担当者が説明をし、ご家族様の不安や疑問にお応えできるよう十分な説明をし理解した上でサービスの提供が行われているよう心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会や来訪時、近況報告をする際意見や要望等を気兼ねなく言ってもらえる雰囲気を作るよう心掛けています。意見や要望はミーティング等で共有しサービスの向上に努めています。	年2回、家族会を開催し、家族からの要望の把握に努めています。家族の来訪時や電話で要望を聞くこともあります。毎月発行している「みよの便り」は、月間予定の知らせと、日々の楽しそうな入居者の写真を多数掲載しています。本人の生活の様子がよくわかり家族に好評です。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月、開催される運営会議において 各ユニットのミーティングで上がった議題（意見や提案等）報告または相談できる場を設けています。また会議の内容は各ユニットへ報告し情報共有しています。	法人が運営する3グループホーム合同の「リーダー会議（管理者とフロアー長7名参加）」を毎月開催し意見や提案を聞いています。日常的にも会話を通して職員の意見を聞いています。日頃会う機会の少ない夜勤職員とは、夜勤明けに会話することを心がけ、入居者支援に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	希望休の受け入れ、家庭の状況に合わせた勤務体制を取っており働きやすい環境に努めています。職位、資格に合わせて給与額が設定されており、やりがいを持って働ける環境が整備されています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人職員（時短パート職舎）には介護の基礎から利用者様への関わりについて丁寧な指導を実施しています。社内研修はシフトに組み入れ多く参加できるよう工夫をしています。「実践者研修」他、外部研修に関しても積極的に参加できるよう環境が整っています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	毎年、市の開催するキャラバンメイト連絡会や社会福祉協議会等の開催行事に積極的に参加することで同業者のネットワークを作り交流を深めサービスに役立っています(今年はコロナウィルス対策により外部研修は控えています)		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービスの利用を開始する段階でご本人様の困っていること、求めていること、要望などを傾聴し、受け入れられるような関係作りに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始にあたり、ご家族が現在抱えている不安や悩み、考えや思いを持っているかを理解し、どのように支援していけるかを共に考えていけるよう関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人様、ご家族様のお話を伺い必要なことを見極めていきます。必要があれば多職種のサービスも取り入れ支援できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人様に寄り添い得意分野を探りながら毎日の生活の中で活かせるようレクリエーション(仕事)に取り入れる等、工夫や配慮をし共に暮らすもの同士の関係を築いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	来訪時や電話、または手紙及びハガキ(写真付)で日々の様子や体調面等をお話するようにしています。常に共有し一緒に支えていく関係を築けるよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナウイルス対策により今年は面会を控えていますが必要に応じ手紙、電話連絡をし関係が継続できるよう支援しています。	散歩で馴染みの商店街や床屋、川崎大師に出かけ、今まで住んでいた地域社会との関係性が続くように心がけています。家族の協力で、正月は自宅で過ごす人もいます。来訪した友人や知人には湯茶を出し、馴染みの人との関係継続の支援に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	状況に応じて席を配置しています。全員で食事が出来るよう声掛けをしています。職員も席へ座り会話を持つようにしています。2.3階合同のレクリエーションを定期的に行い利用者様同士の交流の場を作るようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了した後は、こちらからの積極的なフォローはしておりませんが 相談があった場合は丁寧かつ親身に対応させていただいております。入院されている方のお見舞いに行くこともあります(コロナウイルス対策あり)		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に「どうしたいのか」という事を考えた支援を心掛け、困難な場合は日々のかかわりの中で性格、言動や表情などから気持ちを汲み取り把握するように取り組んでいます。常に職員で話し合い気付いたことを意見交換しています。	日常生活の会話の中で、入居者の思いや意向を把握しています。入浴など拒否があった場合は、本人の気持ちを理解するため、拒否する理由を探り、丁寧に対応するよう心掛けています。生活歴や日々の関わり合いの中で推測し、本人本位の支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族様から生活歴、環境、仕事等 小さなことでも情報を伺うことにより全体像を把握し日常生活に近い支援を取り入れています。職員間で共有し、その人らしい生活が出来るよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	その人らしい暮らし方、生活のリズムを把握するようにしています。心身状態を見ながら持っている力を出し張り合いのある生活ができるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月ミーティングを行いケアの内容について意見交換を行っています。定期的ご家族様へ連絡し意向や思いを伺い、医療往診時には常に相談し介護計画に反映させるようにしています。	本人と家族の思いを聞き取り、介護計画を作成しています。毎月のユニット会議で居室担当者を中心に話し合っています。3ヶ月おきにモニタリングを行い、半年ごとに見直しています。医師、看護師、マッサージ師、薬剤師の意見を反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様の体調管理、身体状況については生活記録及び個人記録につけている。毎月のフロアミーティングにおいても気づきや日常の変化他、小さなことでも職員で情報を共有し介護記録の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状況に応じて通院や送迎等に、対応しています。既存のサービスに捉われないよう必要な支援は柔軟な対応が出来るよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	常に近隣への食事レクリエーション、買い物、散歩、町内会のお祭り等、外へ出る事への楽しみが増えています。訪問美容によるカット、マッサージ施術、ボランティア他、暮らしの中にも楽しみを多く取り入れています（今年はコロナ対策により外出及び訪問を制限しています）		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	基本はご家族様、ご本人様の希望を尊重し医療機関を決めていただきます。月2回の往診、24時間緊急体制をとっており適切な医療を受けられるよう支援されています。	本人と家族の了承を得て、入居者全員が事業所の協力医療機関の医師をかかりつけ医としています。往診前に訪問看護師が、入居者の健康状態や体調の変化についてのFAXを送り、医療情報の共有を図っています。精神科などの専門外来は家族対応ですが、職員が付き添うこともあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日の各測定（バイタル、体温、Spo2）往診ノートを活用し体調を常に把握しています。変化に気付いた時には訪問看護へ連絡し適切な医療に繋げている。また相談・助言・対応を行ってもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関と連携し早治治療に努めています。情報共有やカンファレンスの場を設け、退院後の生活の安定を図りながら早期に退院できるよう努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人様や、ご家族の意向を踏まえ医療関係者と連携を図り取り組んでいます。状況に応じて意志を確認し安心、納得した最期が迎えられるよう確認しながら取り組んでいる。	入居時に重度化した場合や看取り介護にかかわる説明を行い、本人と家族に意向を聞き、同意書を貰っています。職員は、看護師から看取りケアについて学んでいます。重度化や看取りに対応し、看取り介護の実績があります。看取り後は、職員自身の精神的ケアの研修を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時のマニュアルがあり職員全員が周知するように取り組んでいる。今年はコロナウィルスにより出来なかったが毎年「救命救急講座」を行っていききたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練の他、職員の消火器訓練、夜間想定訓練、ベランダの避難階段訓練他を隔月実施しております。非常食、飲料は1Fに備蓄しています。	年2回の避難訓練を夜間・日中を想定して行っています。その内1回は消防署員立会いで実施し、職員は初期消火や、ベランダまでの避難誘導を訓練しています。訓練には地域住民の参加・協力を得ています。備蓄品は水・食料などを3日分以上備蓄し、リストで管理しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常に自尊心を傷つけないように心掛け、言葉掛けや対応に配慮をしています。新しく入られた利用者様に関してはフロアーミーティングで共有する等、チームで理解し徹底できるよう努めています。	職員は入居者一人ひとりの人格を尊重して対応しています。声掛けの仕方やスピーチロックはもとより、ホーム内での日常の言動が、入居者にどう受け取られているか、常に気配りをしています。入居者に対して同じ支援対応が取れるよう努めています。個人情報鍵付きロッカーで管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	普段の会話や表情などから自己決定できるよう働き掛け家庭的な暮らしが出来るよう支援しています。外食レク等ではメニューからご自分で食べたいものを選んでもらう。配茶では好きなものを飲んでもらう等、希望を発信しやすい環境作りに配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	出来る限り一人ひとりのペースに合わせ支援しています。食事時間や入浴日は決まっていますが気分や体調に合わせ臨機応変に対応しています。スタッフで連携を図り個別に行きたい所への買い物や夕食後の入浴も可能にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的に訪問カットが入り（今年は職員がカット施術）髪型はご本人様の希望を取り入れています。服装はご家族様の協力を得ながらその方の意向を取り入れる等、その方らしさを保てるよう支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備から後片付けまで利用者様と一緒にを行っています。屋上で栽培している季節の野菜と一緒に収穫し料理をしたり、ホットプレート等を使い利用者様と手作りおやつ作り楽しんでいます。	食事は美味しさにこだわり、毎食職員が調理しています。主食にもこだわり、米は新潟魚沼産を産地直送で、精米したての米を炊いています。入居者は盛り付けや食器拭きなど、出来ることを手伝っています。外食は近隣の障がい者施設が運営するレストランに行き、食事を楽しむとともに交流しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの状態にあった食事形態で提供しています（刻み、ミキサー他）訪問医と連携しカロリーの過不足を意識し提供しています。また馴染みのあるコップを準備して頂くことにより水分量を間違えることなく確実に確認できるようにしています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	声掛けにて口腔ケアを促しています。自力では出来ない利用者様には洗面台へ誘導し介助するようにしています。訪問歯科（毎週木曜日）と連携し口腔内の衛生を保っています。また毎日、昼食前に口腔体操を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを掴み共有しています。立位が取りづらい利用者様には声掛けを統一し立位を促す等、常にスタッフ間でミーティングを行い検討し、可能な限りトイレでの排泄が行えるよう支援しています。	排泄は「生活記録の排泄チェック表」なども活用し自立を支援しています。夜間もほとんどがリハビリパンツを使用していますが、適切なトイレ誘導に努めてトイレでの排泄が行えるよう支援しています。居室でポータブルトイレを利用している入居者も数名います。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便コントロールを行っている。普段の水分摂取はもちろん、特に起床時に水分を摂ってもらう、乳製品や食物繊維を取り入れる。また体操や散歩等運動をし、なるべく便秘薬に頼らないよう工夫しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	決まった入浴日はありますが、ご本人様の体調や希望に応じ時間や曜日を変更する等、柔軟に対応しています。スタッフ間で連携し夜勤帯の入浴も可能にしています。入浴後の洋服を一緒に選ぶ等、楽しんで頂ける配慮をしています。	週2回午前入浴を基本としていますが、入居者の意向を尊重し柔軟に対応しています。リフト浴の設備もあり、車いす利用者も安心して湯船に浸かることが出来ます。一人ひとりが好みの入浴剤を使い楽しんでいます。漢方の薬用入浴剤も好まれ、寛ぎのひとつとなっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活パターンを把握し安心して睡眠が取れるよう支援しています。日中の過ごし方で夜間の状態が変わります。外気浴、散歩等をして頂き十分な睡眠がとれるよう支援しています。不安で眠れない方はフロアへ誘導しお話を聞く等安心して過ごせるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方に関する情報はファイルし変更時は医療ノート（薬局より指導あり）及び日報へ記入しスタッフ全員が周知するよう徹底しています。服薬セットは必ず複数で行い、服薬時はスタッフ間の声掛け読み上げ確認を行い間違いのないよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりが出来る事を知り、その人に合った役割、活動が出来るよう支援しています。台所仕事、掃除、洗濯、新聞たため、散歩、屋上の菜園の手入れ他、日々の生活の中に役割を持っていただき張りのある生活が送れるよう支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	買い物、散歩、地域のお祭り、外食レク等事前に計画することにより外出できるよう努めています。屋上菜園の手入れ、テーブルを出しお茶会をする等少しでも外気に触れる機会が増えるよう心掛けています。個別で好きなものを食べに行けるようご家族様に協力していただくこともあります。	外出支援に力を入れています。近隣の水神社の周辺や公園、多摩川べりの散歩を楽しんでいます。ホームの4階屋上は、遮る物のない見晴らしで日当たりが良く、羽田空港の飛行機の離着陸なども良く見えます。屋上菜園での水やりや野菜収穫など、日常的に外気にふれています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族様から預かり管理をしています。買い物希望がある場合は購入できるよう支援しています。預り金から財布に現金を入れお買い物をしていただく利用者様もいらっしゃいます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族様と連携し、ご本人様の希望に沿い、いつでもやりとりが出来るよう支援しています。手紙を送って頂いた場合はご本人様へ伝え、または代読、居室へ飾るようにしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロアの飾り付けは利用者様と作成した貼り絵や塗り絵等、季節やイベントごとに変えていき楽しんでいきます。行事の写真を掲示することにより会話が弾みます。台所の横にソファとテーブルを配置しているため、生活感もあり食事を一緒に作りながらリラックスした空間で過ごせるように配慮しています。	リビングの壁には手作りの季節の作品や装飾、習字作品などを飾っています。キッチンにはオープン式でリビングと一体化し調理の音や匂いが五感を刺激しています。広々とした採光の良いリビングでは、川崎市がオリジナルで作成した「介護予防かわさき体操」や口腔体操、歌の時間などを実施し、入居者の健康維持活動を支援しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアにソファを配置しており利用者様同士が気兼ねせずリラックスした雰囲気を作るようにしています。時には席を替える等し、自然と雑談できる空間を作っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人様の生活習慣を尊重し自宅で使い慣れた愛着のあるものや好みのものを使用させていただき配慮をしています。居心地よく安心して生活出来るようにご家族様と連携し工夫をしています。	ベッド、エアコン、照明などが備え付けです。床はフローリングで、入居者は、テレビ、椅子、ぬいぐるみなどを持ち込み、思い出の品を飾っています。大手企業の電話交換手時代の写真を飾っている利用者もいます。職員は居室担当制で入居者に寄り添い、清掃などの支援もしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」「分りにくいこと」を探り話合い、目印や物の配置他、工夫し自立支援を行いつつ声掛け、見守りをしながら状態に合わせ無理せず行っていけるよう支援しています。	一人ひとりに合わせ「できること」「わかること」「分りにくいこと」を探り話合い、目印や物の配置他、工夫し自立支援を行いつつ声掛け、見守りをしながら状態に合わせ無理せず行っていけるよう支援しています。		

事業所名	グループホームみよの
ユニット名	みよの3階

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	スタッフ全員で理念を共有し実践に繋げられよう心掛けています。社内外の行事に参加する機会を多く作り自己研鑽に努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会の行事「公園の草むしり、盆踊り大会（コロナウィルス対策により今年は中止）廃品回収他」に利用者様と参する等、地域とのコミュニケーションを大事にしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今年はコロナウィルス対策により「認知症サポーター養成講座」等の講座は控えました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	隔月で開催をしている会議では地域とのかかわり、職員研修、行事企画等を計画し意見交換を行い、よりよいサービスの向上にいかしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	今年はコロナウィルス対策によりキャラバンメイトの参加、認知症サポーター養成講座開催のお手伝い他、控えていますが包括との意見交換等は必要があれば電話で連絡をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束、虐待防止委員会による定期的な研修を行っています。各ユニットのミーティングにおいて身体拘束をしないケアについて常に意識し話し合い取り組むようにしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	マニュアルを作成し防止策に努めています。職員全体の理解を深められるよう社内研修を開催しています。気になる事があった時には常にミーティングで話し合い防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	毎年「成年後見人制度」「日常生活支援事業」についての研修を		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、担当者が説明をし、ご家族様の不安や疑問にお応えできるよう十分な説明をしご理解いただけるよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会や来訪時、近況報告をする際 意見や要望等を気兼ねなく言ってもらえる雰囲気を作るよう心掛けています。意見や要望はミーティング等で共有しサービスの向上に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月、開催される運営会議において 各ユニットのミーティングで上がった議題（意見や提案等）報告または相談できる場を設けています。また会議の内容は各ユニットへ報告し情報共有しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	希望休の受け入れ、家庭の状況に合わせた勤務体制を取っており働きやすい環境に努めています。職位、資格に合わせて給与額が設定されており、やりがいを持って働ける環境が整備されています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人職員（時短パート職舎）には介護の基礎から利用者様への関わりについて丁寧な指導を実施しています。社内研修はシフトに組み入れ多く参加できるよう工夫をしています。「実践者研修」他、外部研修に関しても積極的に参加できるような環境が整っています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	市の開催するキャラバンメイト連絡会や社会福祉協議会等の開催行事に積極的に参加することで同業者のネットワークを作り交流を深めサービスに役立てています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービスの利用を開始する段階でご本人様の困っていること、求めていること、要望などを傾聴し、受け入れられるような関係作りに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始にあたり不安なことがあると思います。困りごと、これまでの経緯等、ご家族様のお話をしっかりと伺い信頼関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人様、ご家族様のお話を伺い必要なことを見極めていきます。必要があれば多職種のサービスも取り入れ支援できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人様に寄り添い得意分野を探りながら毎日の生活の中で活かせるようレクリエーションに取り入れる等、工夫や配慮をし共に暮らすもの同士の関係を築いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	来訪時や電話で日々の様子や体調面等をお話するようにしています。常に共有し一緒に支えていく関係を築けるよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人来訪時はゆっくりお話し出来るよう飲み物をお出しする等の配慮をしています。ご家族様の協力の下、外食、美容室、買い物等馴染みの場所へ可能な限り出かけられるよう支援に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	状況に応じて席を配置しています。全員で食事が出来るよう声掛けをしています。職員も席へ座り会話を持つようにしています。2.3階合同のレクリエーションを定期的に行い利用者様同士の交流の場を作るようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了した後は、こちらからの積極的なフォローはしておりませんが 相談があった場合は丁寧かつ親身に対応させていただいております。 入院されている方のお見舞いに行くこともあります。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりの中で言動や表情などから気持ちを汲み取り把握するように取り組んでいます。常に職員で話し合い気付いたことを意見交換しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族様から生活歴、環境、仕事等 小さなことでも情報を伺うことにより全体像を把握し日常生活に近い支援を取り入れています。職員で共有し、その人らしい生活が出来るよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	その人らしい暮らし方、生活のリズムを把握するようにしています。 心身状態を見ながら持っている力を出し張り合いのある生活ができるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月ミーティングを行いケアの内容について意見交換を行っています。ご家族様面会時には意向や思いを伺い、医療往診時には常に相談し介護計画に反映させるようにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様の体調管理、身体状況については生活記録及び個人記録につけている。毎月のフロアミーティングにおいても気づきや日常の変化他、小さなことでも職員で情報を共有し介護記録の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状況に応じて通院や送迎等、対応しています。既存のサービスに捉われないよう必要な支援は柔軟な対応が出来るよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近隣への食事レクリエーション、買い物、散歩、町内会のお祭り等、外へ出る事への楽しみが増えています。訪問美容によるカット、マッサージ施術、ボランティア他、暮らしの中にも楽しみを多く取り入れています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	基本はご家族様、ご本人様の希望を尊重し医療機関を決めていただきます。月2回の往診、24時間緊急体制をとっており適切な医療を受けられるよう支援されています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日の各測定（バイタル、体温）往診ノートを活用し体調を常に把握しています。変化に気付いた時には訪問看護へ連絡し適切な医療に繋げている。また相談・助言・対応を行ってもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関と連携し早治治療に努めています。情報共有やカンファレンスの場を設け、退院後の生活の安定を図りながら早期に退院できるよう努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人様や、ご家族の意向を踏まえ医療関係者と連携を図り取り組んでいます。状況に応じて意志を確認し安心、納得した最期が迎えられるよう確認しながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	「嘔吐」「出血」「転倒」等、症状別のシュミレーションで勉強会を行っています。職員の分かりやすい位置に医療機関への連絡、職員間の連絡網を掲示しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練の他、職員の消火器訓練、夜間想定訓練、ベランダの避難階段訓練を実施しております。訓練時は近隣の方参加をお願いしています。非常食、飲料は1Fに備蓄しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	特に気を付けている場面は排泄介助にお連れする際の言動です。また排泄、入浴介助においては女性となるべく女性職員が男性となるべく男性職員が対応できるように心がけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	お茶を飲まれる際やおやつ時はなるべく選択制をとっております。外食レクやバイキングレクにおいてはご利用者様の希望の品を選んでいただけるように努めております		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その目をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1人1人の生活リズムを把握し妨げないようにしています。しかし入浴はこちらの時間に合わせていただいている状況であるため希望に沿えないのが現状です		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	2ヶ月に1回の訪問理美容を利用し本人希望の髪型にカットしていただいています。今年はコロナの影響もあり美容師免許を持っている職員によりカットを行っています。洋服を選ぶなどの援助が出来ていないのが現状ですが外出時は綺麗な洋服に着替えていただく形をとっています		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	包丁が使える方にはCWが付き添い野菜切りを頼み、使えない方は人数分の小鉢に分けていただいています。炒め物などはホットプレートを活用し食事作りをする工夫もしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量は毎日毎食チェックし水分量も何時にどれだけ飲まれたかが分かるように生活記録に記載しCWが把握できるようにしています。食事量が低下されている方には医療と連携し栄養補助飲料や嗜好品を召し上がっていただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、必ず口腔ケアを行っています。毎夕食後、義歯を回収しスカットデントに漬けています。週1回の訪問歯科も利用し歯科医からのアドバイスも受けています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握しお連れすることが理想ですが現状では援助の必要な方は時間で誘導してしまっています。個々の排泄パターンを把握できるように排泄表を有効活用していきたいです。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	医療との連携で下剤を処方してもらっています。体を動かす体操を取り入れたりしています。水分も必ず飲んでいただくように声かけを行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	現状では希望の入浴時間、回数といった援助はできていません。入浴中は利用者と1対1になれる場でもあるのでゆったりとした時間をもっといただけるように努めています。また体調不良やご本人様の希望に応じ変更することもあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中はご本人様希望や褥瘡予防の為ほとんどの方が居室に戻り1時間ほど休まれております。夜は日中の活動量に応じて臥床対応をしています。眠れない方はフロアーにお連れし温かいお茶をCWと一緒に飲んでいただいております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬においての知識は不十分ではありますが処方薬が変更になるごとに調べる努力はしています。服薬の際は日付、いつ飲む薬か、名前をご本人様の目の前で声に出して確認しています。他にCWがいる際は2重チェックしています。また最後まで飲み込んだかまで目を離さないようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々の今できる能力に合わせてお願いしています。主婦であった方には米研ぎや調理、洗濯干し、掃除全てお願いします。男性の方でできる方にはテーブル運びなど体力を使ったお願いをすることもあります。月に1回は他フロアーと合同でレクを行ったり誕生日会を行ったりしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	今年はコロナウィルス対策により外出支援ができておりません		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物に行った先ではCWが必ず近くにいる状態でお金の支払いができる方には渡しています。これにより「お金を持ってきていない」という不安感が和らぎます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人様からの要望があればまずはご家族様へ確認の後、対応しています。ご家族様から受け取った手紙はご本人様に渡し必要があれば代読しております。文字を書くことが困難な方ばかりであるためハガキを送付する際は文章は職員が書きご自分の名前だけを書いてもらいご家族様へ送付するといった工夫をしております		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を味わっていただけるように共用空間は月毎に飾りを変えております。 トイレにおいては文字だけでは素気ないため絵を貼ることにより文字と絵により「トイレ」と認識できるように工夫をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ご利用者様のその日の気分に合わせて自由に過ごしていただけるよう食事以外の席は特に指定席を設けず過ごしていただいております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人様が慣れ親しんだ愛着のあるものや好みのものを使用していただく配慮をしています。ご本人様が居心地よく安心して生活出来るように工夫をしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	日々の生活の中で間違っても否定せずにご本人様の今「できること」「わかること」を私たちの手で取り上げ失わないよう近くで見守りながら関わりに努めています		

2020年度

目標達成計画

グループホームみよの

事業所名

作成日: 令和3年4月28日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	コロナの中で「地域」とのつながりが少なくなっている。	可能な限り間接的にでも町内の知り合いの方との交流を行う。	少しかつ、町内の行事が再開している中で参加できるものには参加する。	1ヶ月
2	9	利用者様の「全人的理解」が完全に伝わっていないこと。	「全人的理解」の意味を全職員が理解している状態を目指す。	全職員参加の研修を行い、全職員が担当する利用者様の「全人的理解」についての報告を行う。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月